

# えみちゃんレポート No3

2011年7月



茨城県議会議員 設楽詠美子(しだらえみこ)

住所 筑西市二本成994  
電話・FAX 24-9119

震災から4ヶ月がたとうとしております。農林水産委員会として、農家の皆様よりさまざまな声を聞かせていただくことができました。「医食同源」という言葉の通り、食事をつくるための農業は医療と同じほど重要であると深く感じています。幼稚園・保育園・小中学校すべてに放射線測定モニターが配布されました。不安が安心に変わることを願っております。



6月の補正予算はどのくらい？  
どのように？

6月の補正予算の総額は、1,434億円余(143,379百万円)。

- \* 5月専決処分、特別会計、企業会計含みます。
- \* 年間総予算は、1兆5,007億14百万円となります。

## 主な事業は

- ①道路、河川、港湾、県立学校など県有施設の災害復旧費……973億 12百万円
- ②中小企業、農業、漁業関係者を支援するための融資制度  
の創設や拡充、保証料補助や利子助成など……………207億 35百万円
- ③児童・高齢者施設、商工業・農林業・漁業等の共同利用  
施設などの復旧事業への支援……………64億 72百万円
- ⑤雇用沿創出等事業……………46億 57百万円
- ⑥災害救助や県災見舞金等の関係経費……………27億 57百万円
- ⑦風評被害対策費等……………1億 16百万円
- その他、特別会計・企業会計……………12億687百万円

農林水産施設の被害状況は？  
筑西市の稲の作付け状況は？



農地や水産施設は、水田の液状化や漁港、漁業共同利用施設の破損の被害が大きく、復旧には時間がかかります。県内では、668haの田畑において農産物の作付けができない状況です。筑西市の河間地域は、4haで水稻の作付けが間に合わなかったが、大豆、ソバを作付けすることで対応する。



風評被害できゅうり一箱1,500円が300円となり、スイカは昨年の一箱平均1,000円も安くなってしまい……

筑西市の農家の皆様と5月24日に、県西農林事務所の所長をはじめ職員方々と風評被害に関する座談会を開催しました。3月下旬は、野菜全体で出荷平年比53%まで落ち込んだが、6月下旬には96%まで回復しました。しかしながら、農家の経営は、かなり厳しい状況です。

現在、県内の農産物はお茶を除き、放射性物質の不検出や規制値以下であり出荷制限を受けていません。しかし、まだまだ風評による被害の収束には至っていません。原子力損害賠償紛争審査会より5月31日に、風評被害に対しても支払いをする指針が発表されました。しかし、いつから支払われるかは明らかにされていません。工程表の提出を強く求めています。

県は原発事故に伴い、損失を被った農業者に対してJAグループ茨城と協調し、無利子のつなぎ融資を創設しています。

相談窓口は県農林水産部農業経営課：029-301-3866まで。

また、風評被害対策のために「いばらきの農林水産物イメージアップ事業」としてイベントの開催や出展支援の助成制度があります。

ご相談は、県農林水産部販売流通課：029-301-3965まで。



今後の梨の降雹被害や  
風評被害が心配です。

筑西市の梨園面積の7割に及ぶ100ha超において、4月の降雹による被害がありました。その被害は、5億円を超えると推測されます。

- 今後は、
- 1) 防災網の設置に向けた物質的、人的な補助の充実、
  - 2) 地域気象情報提供システム(携帯電話に雷や雹予報が送信)の活用の充実、
  - 3) 加工品の開発(梨のジャム等)、
- そして
- 4) 農業共済組合の加入等に力を入れたい。

なお、地域気象情報提供システムの受付は、  
県西農林事務所の経営普及部門：0296-24-9206(半田技師)までお願いします。



地域医療の再生計画は、どこまですすんでいますか？  
予算の確保は、どのように確保するのですか？

## 新中核病院、300床、救急医療をつくることは決定！

決定していないことは、1) 建設場所、2) 運営形態、3) 市民病院と県西総合病院の今後のあり方。場所に関しては、筑西と桜川の両市の市境から4～5キロメートル以内で、病院の準備委員会で決定予定。運営形態は、公設公営化、もしくは、公設民営化が検討課題。残された両病院は、どのように機能分担をするか？残されたベッドの数と、経営的な理想からすると、一方を診療所、もう一方は入院施設をもつ病院とすることだろう。

## 県内で公立病院の合併は、はじめて！

平成19年度に総務省より公立病院改革ガイドラインが発表され、県は平成21年度3月に公立病院再編ネットワーク化構想を作成。6月より、本格的に筑西・下妻医療圏内に公立病院を持つ筑西市長と桜川市長をはじめ、有識者等で構成する検討委員会がスタート。

しかし、病院再編の具体的な計画はすすまなかった。なぜ？ 両市長、両市議は、市民がよりよい暮らしをと考えて、自分の住んでいるまちに病院を作りたいという強い主張。県の調整力を発揮するときであるが、両市の主張があまりに強く、また、はじめての事例。

## 予算を求めて

予算に関しては、平成21年度の地域医療再生基金の15億円と、平成22年度補正予算でつくられた地域医療再生臨時特例交付金120億円の一部、20億と両市の合併債を使う予定。交付金を交付していただくに当たっては、原中勝征日本医師会長の仲介のもと、細川厚生労働大臣への要望のために橋本昌知事、福島伸享衆議院、小泉俊明政務官とともに、私も出かけお願いした。

## 県議会議員として

地域医療再生臨時特例交付金が、より多く新中核病院建設の予算となるよう働きかけていきたい。また、子どもたちを安心して産み育てられる病院、24時間保育所の設置等で女性が働きやすい病院をつくっていきたい。



うちの子の保育園と近所の子の保育園の給食やおやつメニューに大きな違いがあるのですが…

筑西市の保育園では、約9割の園において栄養士さんの雇用があります。給食やおやつは、子どもたちの大切な栄養源、食育に力を入れている園もあれば、家庭の食事を補うものなので、家庭での食事指導を充実すべきという園もありました。

園には栄養士さんを雇う義務はなく、県は今まで保育士さんのみへの雇用補助を行ってきました。栄養士さんにおいても雇用補助の対象になるように県に求めたところ、4月より対象枠が広がり喜んでおります。娘を持つ母としては、家庭と保育園だけでなく、幼稚園における食育にも、力を入れて活動したい。

子どもたちのご飯は安全？



筑西市の水田土壌中セシウム濃度は155Bq/kg（4月）。水稻作付制限の5,000Bq/kgに比してかなり低い数値であり、水稻の作付けを行うことができました。土壌から米に吸収される割合は1/10とされているため、米になるときは15.5Bq/kgと予想され、食物の暫定規制値の500Bq/kgをかなり下回ります。

県のコシヒカリの算出総額は全国第2位であり、米の消費拡大や地産地消に取り組み、米飯給食促進事業も行っています。また、栄養学的にも、口腔保健学的にみてもご飯は重要。丈夫な体を作るには、「医食同源」と「身土不二」の言葉の通り地元のご飯が欠かせません。この秋に実るお米が安心、安全なものであってほしいと思います。

これから2ヶ月(7月・8月)、9月の議会に向けて、以下3つの目標のために多くの現場に出かけますので皆様の声をお聞かせください。

- ①農家の風評被害対策や補償、後継者問題にとりくみます。
- ②病院の内容充実と働きやすい環境づくりに力をそそぎます。
- ③子どもたちが幸せに育つ環境づくりを提案します。

また、意見交換会や県政報告会を随時受け付けております。

Tel & Fax : 0296-24-9119

Email : [eshidara@gikai.pref.ibaraki.jp](mailto:eshidara@gikai.pref.ibaraki.jp)

HP: <http://www9.plala.or.jp/eshidara/>